

1 学校教育目標

児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援をとおして、個々の可能性を伸ばし、現在の生活の充実と将来の自立と豊かな生活につながる教育を行う。

2 本年度の重点目標

- 児童生徒の教育的ニーズに基づく指導の充実と関係機関との連携強化
- 安全・安心な教育環境づくりと防災型コミュニティ・スクールの導入
- 専門性の向上
- 特別支援教育の推進

3 自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学 校 経 営	学校教育目標の実現に向けた組織的な取組	○学校教育目標の実現に向けた各分掌部との連携	○カリキュラム・マネジメント会を月に1回以上実施し、学校教育目標の実現に向けた組織的な取組を行う。	・カリキュラム・マネジメント会(学部主事、教務主任、研究部長、進路指導主事で構成)で、児童生徒の卒業後の姿や目標、評価等を検討する。 ・カリキュラム・マネジメント会での話し合いをもとに、全職員で情報を共有したり、必要な研修を行ったりし、専門性の向上を図る。	B	(成果) ・カリキュラム・マネジメント会を月に1回以上実施し、学校教育目標の達成に向けて、分掌部が連携し、それぞれの業務内容や進捗状況を確認することができた。また、話し合いをもとに、必要な研修を行った。 (課題) ・カリキュラム・マネジメント会の内容を全職員で情報共有できていない部分があった。効率的で的確な周知方法の検討が必要である。
	心身共にゆとりを持って授業・業務に専念できる学校の実現	○業務の適正化・効率化	○総務会で月に1回勤務状況を把握し、主任主事等の役職を踏まえた担当業務の適正化を図る。 ○授業準備や教材作り、事務整理等を行う時間を確保する。	・勤務状況改善に向けた校務改革(①量・質を踏まえた必要業務の精選、②適切な役割分担、組織〔体制〕の見直し、③会議等の時間短縮やまとめた開催)を行う。 ・週に1日は、放課後に会議等を行わない日を設け、授業準備や教材作り、事務整理等が行えるようにする。 ・長期休業中などは休暇を取得しやすいよう、行事日程を調整する。	A	(成果) ・月初めの総務会(衛生推進者を含む)で、前月の勤務状況を確認した。時期的に業務が集中する職員もいたが、業務分担の調整や職員会議の実施の見直しなどで時間を確保し、全体的に前年度よりも時間外勤務時間の減少につながった。 (課題) ・学期末や年度末に会議等が集中する傾向があり、年間を見通してバランスよく計画する必要がある。
授業の充実	児童生徒の教育的ニーズに応じた教育課程の編成	○適切な教育課程の編成	○一人一人の児童生徒の力を伸ばす教育課程を検討・編成する。	・特別支援学校における教育課程の基本事項を押さえ、教育課程について全職員で共通理解を図る研修を実施する。 ・学期毎に教育課程上の課題について見	B	(成果) ・研修を通して、法的根拠をもとに、自校の教育課程についての基本事項を押さえることができた。その結果、次年度の教育課程を検討する際に、職員一人一人が教育課程を編成することへの意識の高まり

				直し改善を図ることができるよう、教育課程検討委員会を学期に1回開催する。	が見られた。 - 学期毎に教育課程検討委員会を実施したことで、各学部での課題を学期毎に整理して見直すことができるようになり、次年度の教育課程編成についての議論も深められた。 (課題) - 新学習指導要領への移行に伴い、職員の学習指導要領の理解や自校で取り扱う学習内容等の整理が不十分である。
	実践的指導力の向上	○教師一人一人の指導力向上	○学期に1回以上事例検討会を実施し、実態把握、指導計画、指導実践における課題を検討し、互いに指導力を高め合う。 ○重度・重複障害児(者)教育に必要な知識や技能の習得度をチェックし、効果的な研修を計画・実施する。	- 各学期に、事例検討会実施週間を設定し、学部・クラス単位で、全児童生徒の事例検討を行う。 - 課題をシートにまとめ、参加者が事前に一読した上で検討会を行うことで、1事例につき20分間で話し合いを行う。 - 重度・重複障害児(者)教育に関する「専門性チェックリスト」を、教務部、進路・地域支援部、研究部で協力して作成する。 - 学期末に各教師が項目をチェックし、結果をグラフ化する。全体的に低い項目内容を中心に、研修を計画・実施する。	B (成果) - 全児童生徒の事例検討会実施後、2事例を取り上げ、全教師で検討する場を設けたことで、情報を共有することができた。特に本校に赴任したばかりの教師にとっての不安や悩みの解消につながり、指導力を高め合うことができた。 - 昨年度作成した「専門性チェックリスト」を見直し、教育課程やキャリア教育についての内容を加えて詳細化を図り、本校の教育活動全体について自己評価できるものに改善した。1学期の結果をもとに研修を計画・実施し、2学期には全項目の評価が上がり、各教師の指導力を高めることができた。 (課題) - 設定した期間以外での必要に応じた事例検討会の実施と定着を図る。
(進路指導) キャリア教育	卒業後の生活を見据えた取組	○医療、福祉等の関係機関や保護者との連携強化	○関係機関に関する情報を収集するとともに将来の豊かな生活に向けた連携体制を充実させる。	- 隣接する施設における居室での授業や関係者との支援会議の実施、また自宅生や在宅訪問教育生徒については、ケース会議を実施する。 - 訓練見学や施設見学等を実施し、児童生徒のニーズに対応できるよう、職員の知識の底上げをする。	B (成果) - 高等部、中学部では居室での授業を行い、小学部では授業参観を実施することができた。施設の職員と支援会議(サポート会議)を実施し、情報交換や共通化できる目標設定について協議することができた。自宅生や在宅訪問教育生についてはケース会議を実施し、福祉サービスの利用状況等について共通理解を図ることができた。 - 訓練見学では、児童生徒の実態把握ができ、施設見学では、卒業後の生活について保護者

						と共に考えることができた。 (課題) 児童生徒が利用している障害福祉サービスに関する基本内容を把握し、医療、福祉等関係機関との連携強化に努め、継続的に取組んでいく。
生徒（生活）指導	交流及び共同学習の充実	○児童生徒一人一人の人と関わる意欲の喚起	○いろいろな人との触れ合いを通して、関わろうとする気持ちを育てる。	- 年度始めに交流相手校や関係団体が一堂に集まる研修会や当日に向けた事前授業を実施するなどして、交流及び共同学習の充実を図る。 - VTRやテレビ電話などで間接交流の内容を工夫し、実施する。 - じゃるじゃるカーニバルや合同作品展等、いろいろな人と触れ合う行事を計画的に実施する。	B	(成果) - 児童生徒が事前授業を通して、当日を楽しみにしている様子が見られた。また、学習当日も、前年度の反省を生かして、内容を工夫改善したことで一緒に活動を楽しむことができた。 - ビデオレターなどでの間接交流も各学部で実施することができた。 (課題) - 行事を計画的に実施することはできたが、直接触れ合う機会が少なかった。いろいろな人と触れ合うことができる活動内容になるよう工夫する。
人権教育の推進	職員の人権意識の向上	○正しい人権感覚に基づく授業実践	○児童生徒一人一人を尊重した関わり方や行動を意識し、実践する。	「生活振り返りチェック表」を使用し、児童生徒への配慮や支援について、全職員が定期的に振り返る。	B	(成果) - 生活振り返り表の項目で、全員が○をつけた項目が増加し、職員の人権意識の向上が見られた。 (課題) ○をつけた割合が多くない項目があった。改善するよう、職員への意識付けを行う。
		○人権教育に関する正しい知識・理解	○部落問題をはじめ様々な差別に関する正しい知識・理解を深める。	職員へのアンケート調査を行い、年に3回ニーズに応じた校内研修を実施する。	B	(成果) - 今年度は職員へのアンケート調査は実施しなかったが、昨年度までの課題やアンケート結果をもとにニーズに応じた校内研修を計画実施できた。 (課題) - 次年度は研修の内容と実施時期を検討して、学校の実態に応じた研修の充実を図る。

	命を大切に する心を育む 指導の実施	○命を大切に する心の育成	○自他を好きになり、 友達を大切に する心を育てる。	・全校集会で、学期に 1回「なかよし集 会」を実施し、児童 生徒がお互いを認 めあえる活動を行 う。	B	(成果) ・レクリエーション活動をと おして、児童生徒同士がお 互いに視線を向けたり、タ ッチをしたりするなど、お 互いを意識することができ た。 ・「なかよし集会」終了後も、 掲示してある児童生徒全員 の「あったかカード」を見 ながら、友達を意識する様 子が見られた。 (課題) ・職員に事後アンケートを実 施し、児童生徒が人権の大 切さについてより効果的に 学べるよう、活動内容を充 実させる。
いじめの 防止等	いじめの ない学校 づくり	○いじめの 未然防止 ・早期発 見	○いじめは起こりうる という視点で、いじ めを見過ごさない意 識の徹底を図る。	・学期に1回「いじめ 防止等対策委員会」 を開催し、児童生徒 の実態に即した「い じめ」への対応を検 討する。 ・委員会での内容を全 職員に周知し、共通 理解を図る。	B	(成果) ・外部専門家の助言をもとに 本校における「いじめ防止」 について全職員で共通理解 することができた。 (課題) ・いじめの未然防止のために 職員のニーズに応じた研修 を行ったり、アンケートを とったりする。
地域支 援	教育支援	○教育相談 の充実	○各学校等のニーズに 対応した適切な支援 を実施する。	・天草管内の全学校の コーディネーター や特別支援学級等 担任に7月までに アンケートを実施 し、ニーズを把握す る。 ・ニーズの分析結果を もとに必要な支援 を12月までに行 う。 ・10月までに教育相 談の依頼がない学 校については、12 月までに訪問し、状 況を把握するとと もに、必要に応じて 支援を行う。	A	(成果) ・各学校等から依頼のあった 巡回相談への対応だけでなく、 本校から支援エリア内 の全ての学校への訪問を行 った。訪問では、アンケー トをもとに情報交換をし たり、支援が必要な児童生徒 の授業参観をしたりするな どして、支援を行うことが できた。 (課題) ・今後も、各学校等と連携し ながら、より詳しくニーズ を把握したり、継続した巡 回相談を行ったりするなど 適切な支援を実施してい く。

(コミュニティ・スクールなど) 地域連携	地域等に信頼される学校づくり	○はまゆう療育園及び地域の人材や団体との連携	○はまゆう療育園・地域の人材や団体との協力体制を強化する。 ○新たな人材・団体とのつながりをつくり、協力関係を構築する。	・はまゆう療育園及び地域の行事への参加・協力を積極的に行う。 ・H Pや学校新聞を通じて常に新しい情報を発信する。 ・地域の人的資源に係る情報収集を行う。 ・授業の様子を地域の方に参観していただく機会をつくる。	B	(成果) ・ホームページの更新を月に7回程度行い、行事等のお知らせや児童生徒の学習の様子を随時発信することができた。 ・地域の方へも公開研究発表会の案内を行い、地域の方に授業を参観していただくことができた。 (課題) ・新たな人材・団体とのつながりをつくるために、今後も情報収集・情報発信に努めていく。
	防災型コミュニティ・スクール	○地域と一体となった防災体制の構築	○大規模災害が発生した際に、児童生徒、職員の安全を確保するために、防災マニュアルや避難所運営マニュアルを作成する。	・運営協議会を年5回開催し、関係機関と連携したり、意見を取り入れたりしながら、防災マニュアルや避難所運営マニュアルを作成し、万一の際には関係機関と連携し運用できるようにする。	B	(成果) ・関係機関と連携し、協議することで災害発生時の本校の役割について確認することができた。 ・児童生徒に対する防災教育の年間計画を作成することができた。 (課題) ・はまゆう療育園と避難所運営等について協議を重ね、連絡・協力体制づくりはできたが、詳細なマニュアル作成までには至らなかった。
安全・安心な学校生活	危機管理安全管理の徹底	○危機管理意識及び対応力の向上	○危機管理マニュアルを熟知し、具体的場面に即した訓練や研修を実施し、緊急時の対応力を高める。 ○ヒヤリハット事例の活用及び共有を図り、職員の日頃の状態を「見る意識」とリスクに「気付く目」を養う。	・具体的場面を想定した訓練を年7回計画・実施し、出された意見や反省を全体で共有し、改善していく。 ・危機管理マニュアルを参考に、学部やクラスで緊急時の動きの確認を定期的に行う。 ・事故防止のため、健康・安全面に関するヒヤリハットを出し合う。また、過去のヒヤリハット事例については、行事前等に全体で情報を共有し、注意喚起する。	B	(成果) ・各訓練では、マニュアルにもとづき、各学部で動きを確認し、具体的場面に即した訓練を実施することができた。訓練後の反省、徹底事項に関しては、全体で共有し改善につながった。 ・健康・安全面に関する気付きや昨年度のヒヤリハット事例について、全体や学部で共有することで、意識して準備や活動を行うことができた。 (課題) ・ヒヤリハットはあっても報告までには至らないことが多かった。ヒヤリハットを記録に残し、全体で情報を共有することで、危機管理意識の向上に努める。

4 学校関係者評価

本校の自己評価や外部アンケートの集計結果の説明を行い、以下のような意見が出た。

- 交流及び共同学習をとおして、本校（小学校）の子どもたちの様子に変化が見られた。交流をしていない学年の職員にどう広めていくかを考えていかななくてはならない。
- 芥北町には、福祉施設、特別支援学級、特別支援学校がある。さらに、小・中・高校まで芥北支援学校と交流をしている。子どもたちを始め、大人の人ももっと関わってほしい。障がいに対する理解が深まると思う。
- 公開研究発表会に参加し、授業参観や講演を聴くことができとても参考になった。本校職員（小学校）にも参加してほしいが、土曜日開催で部活動の指導等があり難しかった。
- 地域との連携においては、情報発信等はされていると思う。このまま続けていき、理解する人が増えるといい。
- 主に行事のときにボランティアとして参加した。参加してみて、児童生徒の様子や頑張り、また先生方の支援の工夫が分かった。
- 施設との情報交換については、施設職員の意識も変わる必要があると思う。必要ならば施設から学校に尋ねて情報を共有する姿もあって良いと思う。
- ヒヤリハットの件数は多い方が安全なのかもしれない。危険を感じるアンテナの感度を高めるとともに、報告しやすい雰囲気をつくることも必要だと思う。

5 総合評価

- 学部主事、教務主任、研究部長、進路指導主事を中心としたカリキュラム・マネジメント会を発足させ、教育目標の達成に向けた取組を実施することができ、次年度に向けた教育課程の改善へとつながった。
- 勤務状況改善に向けた取組の結果、時間外勤務時間の月平均時間、月最高時間等、昨年度より短縮することができた。
- 公開研究発表会を実施し、3年間の取組を発表することができた。各チェックリストの改善と活用やチームで効率よく課題を解決する話し合いのスタイル構築等、専門性の向上につなげることができた。
- 芥北町内全ての小学校・中学校・高等学校と打合せや反省を行い、交流及び共同学習を実施し、同世代の児童生徒と触れ合うことができた。また、ボランティア団体の方とも触れ合う機会もあり、多くの方と楽しく活動することができた。
- 本校の支援エリア内全ての学校へ訪問し、情報交換を行った。各学校の現状や課題等を把握することができ、その後の巡回相談につながる等、特別支援教育のセンター的役割を果たすことができた。
- 各訓練等を実施し、危機管理マニュアルを随時改善することができた。また、非常持出品や避難物資等を充実させ、配置場所と物品リストを危機管理マニュアルに追加し、災害に備える取組ができた。

6 次年度への課題・改善方策

- 公開研究発表会を地域の方にも案内したり、ホームページの更新回数を増やしたりと情報発信に努めているが、外部アンケートでは「よく分からない」という回答もあった。情報を伝える工夫や授業参観の機会をつくる等、多くの人に本校を知ってもらう取組を検討する。
- 新学習指導要領への移行に伴い、職員の学習指導要領の理解が十分にあるとは言えない。引続きカリキュラム・マネジメント会を中心に1つ1つ課題を整理していく。
- 学校関係者評価でヒヤリハット件数の少なさについて指摘があった。何をもってヒヤリハットとするのか、どうしたらもっと気付くのか、報告の仕方に問題はないのか等を整理し、一人一人の危機管理意識の向上につなげる取組を行う。